

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	岩本 綾
主論文題目： 社会的「つながり」を形成する留学： 社会関係資本から見た高校交換留学体験とその支援				
(内容の要旨) 「グローバル人材」育成の手段として留学が促進される一方で、「グローバル人材」育成の前提であるメリトクラシーは行き過ぎの様相を呈し、格差拡大を招いている。留学が個人の能力向上に与するという見方は一面的に過ぎず、留学促進のためにはそれとは異なる留学成果を提示することが必要である。本研究は、留学体験が「つながり」すなわち社会関係資本を強化するという点に注目し、未解明であったその理由や過程を検討した。具体的には、目指す社会像として「共生配慮型の競争社会」（今田, 2002）を挙げ、そうした社会を担う、人との関わりを重視する人材を育てるために、異文化生活体験そのものを主眼とする高校交換留学が役立つことを示した。さらに、高校交換留学を促進するために、留学動機や留学体験の帰国後の位置づけにおける支援策についても検討した。それらは、高校交換留学体験者である大学生に実施した半構造化インタビューと、そのデータの M-GTA による分析に基づいている。 大学生が高校交換留学の意味を認識していくプロセスと、留学体験者が海外大学への進学を決めていくプロセスを分析した結果からは次のことが言える。高校交換留学を通して「橋渡し型」の社会関係資本である交流団体やホストファミリー、ホストスクールの働きに触れ、現地の一員としてコミュニティに組み込まれた留学体験者は、充実した「接合型」社会関係資本の中で、特定の社会や人間に対する特定化信頼を育み、帰国後にはそれを一般的信頼に変換する。その結果、自分たちの生きる社会をよくするために、次は自分が「橋渡し型」の役割を果たしたいと考えるようになり、他者とつながるような活動に積極的に取り組む。こうした「つながり」の展開は、留学を「グローバル人材」育成の手段として捉える場合には強調されないが、留学成果の重要な側面としてもっと注目されるべきである。 高校生が高校交換留学を決意していくプロセスの検討からは、「教員等からのサポート・家族からのサポート」「情報やピア・ネットワークへのアクセス」「過去の海外経験等で得た人とのつながり」の3点の「つながり」が、高校交換留学の動機形成を促すことを明らかにした。また、留学体験の帰国後の位置づけには、主体的な進路選択と、大学生活での高校交換留学の相対化が重要な役割を果たしていた。これらの結果を基に、高校交換留学の支援策を提案した。				
キーワード：高校交換留学、社会関係資本、帰国後、留学成果、M-GTA				